

令和5年度

自己評価集計結果・総評

新潟保育園

保育者一人ひとりが保育や園全体の質の向上を図るため、自己評価を2024年6月に実施し、昨年度（令和5年度）を振り返りました。

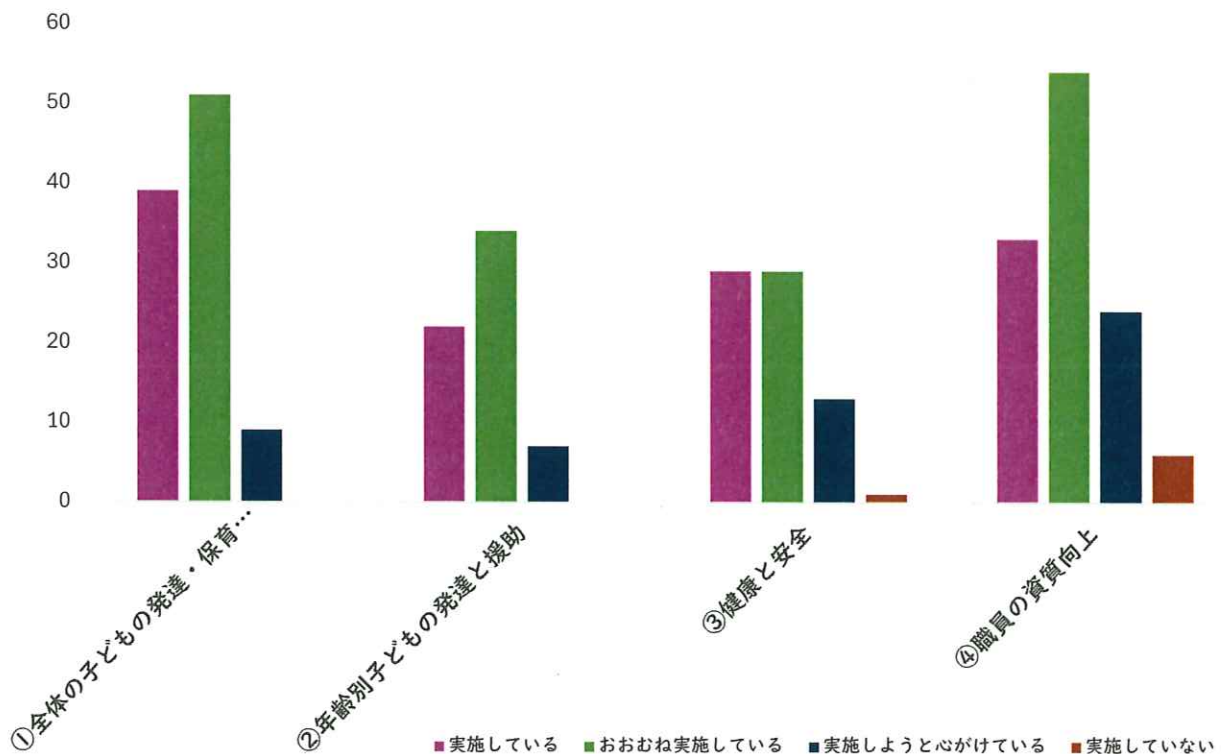
<評価方法>

◎：実施している    ○：おおむね実施している    △：実施しようと心がけている    ×：実施していない

集計結果（回答人数 9人）

評 価	◎	○	△	×
①全体の子どもの発達・保育内容および計画	39	51	9	0
②年齢別子どもの発達と援助	22	34	7	0
③健康と安全	29	29	13	1
④職員の資質向上	33	54	24	6
合 計	123	168	53	7

## 自己評価 集計結果



## 【令和5年度 自己評価 総評】

- ・「職員の資質向上」の自己評価を通して、“継承と発展”を考える機会になった。良い保育、行事の作り方や見せ方は今までと同様に進めていき、時代に求められていることも考慮し、保育を変えようと振り返ることができた。
- ・ネット時代で、いろいろな情報収集ができ活用できているが、苦手なものや興味がないものに関しては遠ざけてしまう。今後は、選ばずに広範な知識が身につくよう努力していきたい。
- ・職員の“報・連・相”や良好な関係が園の良き雰囲気を持っていると思うので、今後も心がけていきたい。
- ・成長段階を踏まえて保育を進めてきたが、生活面の自立や食事面での成長を常に考えていた。子どもたちが負担にならず、普段の流れの中で身につくよう、気づくよう、一人ひとりの成長に合わせた。しかし、個人差を工夫した保育の進め方に課題もあり、保育の難しさを改めて感じた。
- ・行事や日常的に何かあった際など、同じクラスの先輩職員に相談させていただくことができ、本当にありがたかった。また、日々の保育でも話し合いを密にすることでお互いの方向性が明確になり、さらに、サポートもしていただいたことで一年間を通して有意義な保育ができた。
- ・持ちあがりの職員がいなかったため、子どもたちの関係性を作ることに苦戦したが、わからないこそ子どもたちとたくさん関わろうとしたり、以前の指導案を見返したりと、自分なりに理解しようと努力した。
- ・“〇歳児はこうだ”と今までの経験から決めつけた保育を進めてきた部分もあったので反省した。また、進級準備など年齢に合った進め方や取り組み方の配慮が必要だったのではないかと感じた。複数担任同士、新しいやり方や保育内容をともに考え、お互い話し合うなかで今までにない発見を見つめることができ、よい刺激になった。今後も、研修や本などで吸収した内容を取り入れ、新しい取り組みなど積極的に行っていきたいと思う。
- ・キャリアアップ等の研修に参加することで理解したり、実践できることがあった。クラス全体よりもまずは子ども一人ひとりの成長を大切に見守り、援助するなかで担任同士が確認し合い共有できた。
- ・自我が芽生えたり、自分の意思表示をするように成長した子どもたちに、やって良いことといけなことを伝える際には、どうしていけないのかをわかりやすく伝えなければならない。今後も年齢に合ったいろいろな方法を試しながら、どのように伝わるのかを自分なりに探していきたい。
- ・非常災害時などの場合に、何をしなければならないかをだいたい理解しているが、マニュアルについては熟読不足だった。命に関わることなので、避難訓練だけでなく実際に起こってしまった時を想定し、気を引き締めて日々の保育を進めていきたい。